

奉祝建国記念の日

明治天皇御製 柱

檀原の^{かしはら}とほつみおやの宮柱^{みやばしら}たてそめしより國^{くに}はうごかず

日本建国のものがたり



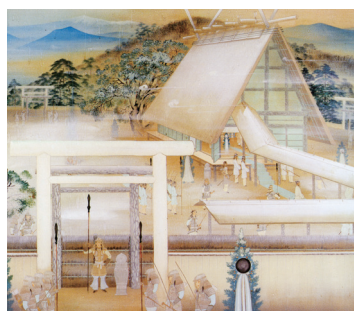
稲穂をニギノミコトに授けられる天照大御神

我が国の成り立ちらは古く、神話につらなっています。太陽の神である天照大御神は、お孫さまのニギノミコトに「豊かに稲が実るこの日本の国は、わが子孫が治める国であり、天皇の御位は天地が続くのと同じように永



天孫降臨。高天原から地上に降られるニギノミコト。

久につづきます」という内容の、いわゆる「天壤無窮の神勅」をお述べになりました。ニギノミコトは、そのお言葉に従って神々の国、高天原から日向の国、高千穂の峯にお降りになりました。その時、天照大御神は、稲穂とともに、鏡（正直を表す）、剣（決断力を表す）、勾玉（慈愛を表す）の三つのみしるし、三種の神器をニギノミコトにお授けになりました。



神武天皇の御即位

我が国を建国された初代の天皇でいらっしゃる神武天皇さまは、このニギノミコトの御子孫です。神武天皇さまは、人々の幸せを願われ、日向の国を出発され、様々な困難を乗り越えられ、大和の檀原の畝傍山のふもとに都を開かれ、天皇の御位におつきになりました。



神々に感謝のおまつりをされる神武天皇

この日を記念して、今日の建国記念の日が定められました。建国の宣言には、国民への慈しみと世界の平和の理想が述べられています。

以来、我が国は絶えることなく一系の天皇さまをいただき発展してきている幸せな国なのです。これからも私達の祖国日本を守り、発展させ、真の世界平和に貢献してまいりましょう。

人にもそれぞれ誕生日があるようにどの国にも誕生した日があります。世界の各国では建国や独立した日を大切な祝日として定め、その国に生まれたことを喜び、また建国以来これまで国の発展に尽くして来た人々の努力を偲んで、国民こそぞつてお祝いする盛大な祝賀行事を行っています。

わが国では、近代国家の仲間入りをした明治時代に、初代神武天皇が御即位された年の元旦を太陽暦に換算して二月十二日が紀元節として定められました。先の大戦後に一時廃止のやむなきに到りましたが、占領の終了と共に国民のなかに建国記念の日をお祝いする日を定めようという気運が澎湃として起こり、昭和四十一年に、建国をしのび、国を愛する心を養うことを目的に、再び二月十一日が名称を「建国記念の日」として制定されました。

私共は、日本国民として日本国の誕生日である「建国記念の日」をお祝いし、長い歴史のなかで受け継がれてきた建国の理想と精神を仰ぎ、先人のためなめ努力に感謝し、皇室の弥栄とわが国の一層の発展を心から祈念して建国記念の日奉祝大会を開催します。